

平成 30 年度 春期 プロジェクトマネージャ試験 解答例

午後 I 試験

問 1

出題趣旨	
<p>プロジェクトマネージャ（PM）は、業務の効率向上を図る手段としてクラウドサービスを利用する場合には、効果的な活用方法を明らかにする必要がある。</p> <p>本問では、SaaS を利用した営業支援システムを導入するプロジェクトを題材に、SaaS の特徴を考慮したシステム化方針の決定、プロジェクト目的の達成に寄与する SaaS の選定、SaaS を前提とした要件定義及びデータ移行方法の検討について、PM としての実践的な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問 1	(1)	a システムの保守費用の最小化	
	(2)	b <ul style="list-style-type: none"> ・ 契約した利用量を見直す必要性 ・ 契約条件に沿った利用になっていること ・ 次契約の利用者数及びデータ容量 	
設問 2	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ データ容量を抑えて、費用負担を少なくしたいから ・ SaaS の利用にかかる費用負担を少なくしたいから 	
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行営業支援システムでは役職コードを取得していないから ・ 役職に応じたデータの閲覧に必要な利用者権限を適切に付与したいから 	
	(3)	新営業支援システムの保管データを失うリスク	
設問 3	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要件定義以降の工程での手戻りのリスク ・ 計画どおりの期間で稼働できないリスク 	
	(2)	c 営業部の担当者の業務負荷が許容範囲に収まること	
	(3)	過度な費用負担にならないようにしたいから	

問 2

出題趣旨	
<p>システム開発プロジェクトにおいて、プロジェクトマネージャ（PM）は、適切な品質管理計画を立案し、実践した上で、実績を適切に分析・評価して、得られた成果や知見をその後のプロジェクトや、組織の他のプロジェクトに活用することが求められる。</p> <p>本問では、設計工程での品質確保を目指す組織のプロジェクトを題材に、PM の品質管理に関する実践的な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問 1	(1)	設計限界品質に近づける活動	
	(2)	自工程よりも前の工程群での欠陥摘出が不十分だった状況	
設問 2	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ テスト工程は納期に近く、時間の余裕が少ないから ・ テスト工程は時間の制約で、手戻りをリカバリする余裕が少ないから 	
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 混入工程ごとの総欠陥数 ・ 指標における分母 	
設問 3	(1)	イ 50.2	
		ロ 58.0	
	(2)	対処のコストが、予防のコスト以下であったケース	
(3)	a <ul style="list-style-type: none"> ・ α 群に関する新しい品質管理指標の数値が、β 群よりも高いこと ・ 両群について、新しい品質管理指標の結果に有意な差があること 		

問3

出題趣旨	
<p>プロジェクトマネージャ（PM）は、プロジェクトを計画どおりに進めるためにステークホルダを正しく把握し、その特性に基づいたコミュニケーションマネジメント計画を策定する必要がある。</p> <p>本問では、コミュニケーションを密にするべきステークホルダが存在する状況下での情報システム刷新プロジェクトを題材として、ステークホルダのプロジェクトへの関わり方や、子会社の業務範囲拡大に向けたプロジェクト内部のマネジメント計画の改善について、PMとしての実践的な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・主要なステークホルダに対して適切な対応をとること ・P社社長への報告経路や報告の会議体を整備すること 	
	(2) P社社長の知りたいことを適切に報告できず、見直し依頼が発生すること	
	(3) <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトに対する姿勢に抵抗があるが、影響度は高いから ・T氏だけでは業務要件を定義できず、S部長の支援が必要だから 	
設問2	(1) a A社社長	
	(2) 最先端のCRMシステムの機能や効果を理解して、協力してもらうため	
設問3	(1) b プロジェクト管理の重要性	
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトにおけるチーム活動の重要性についての勉強会の開催 ・複数メンバでプロジェクトチームを組むことによる業務の遂行 	
	(3) 顧客とA社とのレビューにY主任も同席してもらうこと	